



資産形成時代の到来と概念のアップデート

昨春から、高等学校家庭科の内容に資産形成が入りました。教科書や授業実践事例が、新聞やニュースで取り上げられるなど、ご存知の先生も多いことと思います。

人生100年時代に入り、高齢期は長期化しています。安心して暮らすには、長期的視点で経済計画を立て、長い高齢期に備えなくてはなりません。また、現代はVUCA時代と言われています。VUCAとは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の4つの単語の頭文字をとった言葉です。新型コロナウイルスの感染拡大、地球温暖化に伴う気候変動や異常気象など、予測困難な事象が起こっています。加えて、グローバル化やデジタル化が進展し、政治、経済、個人のキャリアに至るまで、あらゆるものが複雑さを増しています。長い人生を生き抜くには、病気や事故、失業などのリスクへの対応策が必要になります。このような社会の変化から、生涯を見通した経済計画として、資産形成が求められるようになってきました。

家庭科教育では、小学校で「金銭の大切さと計画的な使い方」、中学校で「計画的な金銭管理の必要性」、高等学校で「預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴、資産形成、生涯を見通した経済計画の重要性」が示されています。

これまで、お金の使い方として、Spend（自分のために使うお金）、Save（貯めるお金）、Share（人や社会のために使うお金）の3つが提示され、Save（貯めるお金）では貯金箱を用いた教育がなされてきました。先日、経済に関するニュース番組で、海外の製品で、豚の形をした貯金箱Piggy Bankが紹介されていました。豚の胴体が、Spend（自分のために使うお金）、Save（貯めるお金）、Donate（寄付に使うお金）、Invest（投資に使うお金）の4つに区切られ、それぞれ取り出せるようになっています。

キャッシュレス社会への移行に伴い、貯金箱そのものは衰退していくことが予想されます。しかし、Piggy Bankが示すように、お金の使い方の概念をアップデートし、生涯にわたって健康で豊かな生活を送る力を身に付けることが期待されます。

小学校家庭科研究部 第2回研修会報告

令和5年8月2日（水）午後 於：教育会館 大会議室

小中家庭科合同研修内容

○実践発表

「こんだてを工夫して」

～勤労感謝の日に、家族に感謝の気持ちを伝えるこんだてチケットをプレゼントしよう～

富塚小学校 幸田 奈々 教諭

「地域・家族とつながるプロジェクト」～共に生きる地域での生活～

北浜北小学校 保科 麻衣子 教諭

「生活の営みにかかわる見方・考え方を働かせながら、課題解決に向かう過程を重視した授業づくり」～自分の理想とする消費者の姿とは～

北浜東部中学校 鈴木 青葉 教諭

○情報交換会

自校における家庭科の実践について（小中合同）

家庭科授業ノートについて（小学校）

○実践発表 指導講評 <新津中学校 平野 敦子 校長>

「こんだてを工夫して」 富塚小学校 幸田 奈々 教諭

- ・子供たちの学ぶ意欲につながるテーマ設定で、他教科とのつながりも意識している。
- ・時代や国による共通点や相違点を見付けるなど、献立作成のポイントを明確にするための工夫がされた実践である。
- ・栄養教諭と連携し、家庭科の授業とつなげていくことが食育として有効である。
- ・平均寿命など、子供が関心をもちそうな資料を提示するとさらに深まりがある。
- ・「家族のために」とは、相手の何に合わせるのかをはっきりさせるとよい。
- ・「感謝」をどのように捉えるか、子供たちにアンケートを取り明確にするるとよい。
- ・第4次になる浜松市食育推進計画について知っておくと、活用できる。

「地域・家族とつながるプロジェクト」 北浜北小学校 保科 麻衣子 教諭

- ・家庭科の学びを12の「家庭科の技」、大切にしたい6つの「関わり方」に整理をしたことで、子供の意欲につながった素晴らしい実践である。
- ・観点を子供にも示しやすく、振り返りや評価がしやすくなる。
- ・子供が自分の「家庭科の技」の高さを客観的に測ることができるのか。実践した活動から客観的に自己評価するための手立てが今後の課題となる。
- ・地域の人々との関わりの題材では、コミュニティ・スクールの力を借りていくとよい。

「生活の営みにかかわる見方・考え方を働かせながら、課題解決に向かう過程を重視した授業づくり」 北浜東部中学校 鈴木 青葉 教諭

- ・「消費生活」はここ数年で劇的に変化しているため、最新の情報を得ていく必要がある。
- ・視野が広がり過ぎてしまい、「どれも良い」となってしまった。「自立した消費者」のために何が必要なのか、明確なポイントとして示せるものを今後研修していきたい。

○情報交換会

- ・同じ中学校区や近隣の学校で構成されたグループになり、小中合同で情報交換した。家庭科の授業について、自校で実践したことなどを紹介し合った。
- ・自校で使っている家庭科ノートについて、使いやすい点や使いにくい点、改善点などを話し合い、今後の授業での活用方法について研修を深めた。

《情報交換会の様子》



【編集後記】

今年度の夏の研修は、小中学校両方の実践発表を聞いたり、小中の教員が集まって情報交換をしたりして、新たな学びがありました。来年度は教科書の改訂、出文の家庭科ノートの廃版と変化がありますが、「学びを止めない」でいたいと思います。 原田 佳代子（庄内学園）